

講義名	グローバル競争論			授業形態	
担当教員	李 東浩	開講期・曜日・時間	後期 水曜日 3 時間		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

本授業は双方向・多方向的な授業である。
 本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する。
 本授業の実施方法の詳細について以下を参照してください。
 李東浩 (2017)「学生の心を掴む生きた教育 教学双方の意識転換によるアクティブラーニング」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第 2 号 pp.75-104 (30頁)。
 ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細について以下を参照してください。
 李東浩 (2018)「学部ゼミ運営に関する一考察 「楽しく頑張る」から「ひとづくり」」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第 3 号 pp. 1-19 (19頁)。
 大学教育改革に関する論文も公開しており、以下を参照してください。
 李東浩 (2022)「大学教育の進化と変革 レスポンの活用とコロナ対策のオンライン教育の実象」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第 7 号 pp. 119-134 (16頁)。
 李東浩 (2023)「学習能力の形成と進化 知の定着、深化と探索のパラダイム」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第 8 号 pp. 107-121 (15頁)。
 真面目な学生・本気に勉強の意欲がある学生は強く勤める。
 毎回、面白いビデオがある。

到達目標

- 履修生は、グローバル競争論を学修するものにとって当然知っておくべき知識を習得できるようになる。グローバル競争論の基本理論を紹介するとともにケーススタディ(事例研究)をも取り上げるので、理論と実際とをバランスよく理解できるようにする。
- 履修生は、本講義を学修することによって、日常に企業に触れたり、企業に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聞いて、グローバル競争的な側面から評価し、レポートにまとめることができるようになる。
- 本授業で得られたグローバル競争論の理論とケースの知識・能力を身につけ、初歩的なグローバル競争に関する経営計画を作成できるようになる。
 具体的に、
 (1) 知識・能力・資格を身につける。
 本授業を通じて、グローバルになりつつある中で、歴史的に世界のリーダー格になった・なりつつある国々及び地域的な巨大な影響力を有する国々の過去・現在・将来を地政学・経営学・経済学・社会学といった多面的な視角から説明する。受講者の正しい世界観、歴史観、国際関係観を形成できるようにする。
 (2) 思考力・判断力・表現力を向上させる。
 論理的に基本的な概念・理論と方法を学ぶだけでなく、毎回の授業に実際の企業の事例も取り上げ、ビデオも活用しながら、理論と実際とをバランスよく理解できる。ただ単に授業内容とビデオを聞く・見るだけでなく、考えて、判断、討論、発表、考え直し、まとも、といった一連の仕組みで毎回、知識と能力が身につくことを実感できるようにする。

提出課題

- 各自事前に、以下4つを使用できるように準備しておいてください。
 リュウカポータル及び、
 アウトLOOKメールoutlook mail 及び、
 レスポン及び、
 キャンパスクロス
 などの使用方法等を熟知・理解し、毎回課題を提出できるように準備してください。
- 毎回レスポンス課題と期末試験(レスポンス課題提出式)の提出があるので、作成要領等の指示に従い、〆切期前に提出してください。
 ただし、単位判定対象となるのは、期末試験(レスポンス課題提出式)の1回分のみである。
- それ以外の回では、レスポンス課題は自由提出になる。成績に影響を与えない。
 ただし、学習勉強と自己成長の効果を実感するため、毎回の提出を勤める。
 期末試験(レスポンス課題提出式)の準備練習としても、多大な価値があるので、毎回の提出を勤める。
- 毎回、発言と討論の時間はある。1分前後の発言がある場合、プラス 2点を与える。留学生も含めた履修者全員、積極的に討論・発言していきますよ。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

- 毎回、前回課題へのフィードバックと振り返りを解説する。
 優れた提出内容を表彰してほしい内容をマークや色付けで強調して表彰や注意喚起をする。
 モチベーションアップにつながるだろう。
- 毎回、全体的な状況や一部代表的な課題をまとめて提示する。
 双方向・多方向的な考え学習型授業の醍醐味を理解して、互いに勉強しよう。
- 毎回、自分の学習成果のチェックだけでなく、他人の意見や考え、先生のコメント・説明をも確認できる、PDCAのスパイラルアップ過程を通じて、毎回自分のやる気にもつながり、自己成長を実感できる。

評価の基準

- 期末試験(3日間・レスポンス課題提出式)の1回分(100点満点) + 平日発言プラス 点数で総合的に判定する。
- 期末試験(レスポンス課題提出式)の中身である。内容・要領・期間・時間等について、リュウカポータルキャンパスクロスの両方に提示する。
 毎日、真面目に取り組むと、期末に期末試験を完成できない。
 ネット等の不具合対策を考慮しようえ。余裕をもって、〆切まで期前に提出してください。
 特に〆切の間に、ネットなど不具合の可能性もあるので、時間の余裕をもって提出してください。
 〆切後の提出は認めない。
 レスポン以外での提出は認めない。
 土日休日等、返信が遅くなり、次の授業日にする。

履修にあたっての注意・助言他

- 先輩からの以下の意見を是非参考してください。
- 「5感に磨ける画期的な授業」：
 充実した内容、効率的な進め方知識と能力を身につけられる！
 - 「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すくに行実する。優良企業だと思います。モチベーションがとても高く維持できています」。
 一方的な授業ではなく、交流の場でもある！
 - 「いま4回生だもつと早くこの授業に出会いたかった」：
 知識そのものだけでなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！
 - 「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」
 単位と知識能力を両立して楽しく取るう！

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.決定版 大國の興亡 1500年から2000年までの経済の変遷と軍事競争(上下巻)。	ポール・ケネディ	笠原社：決定版 (1983/2/1) 456ページ	971	4794204914
.米中戦争前夜 新大國を衝突させる歴史の法則と回避のシナリオ。	グレアム・アリソン(著)、船橋 洋一・序文(その他)、藤原 朝子(翻訳)	ダイヤモンド社 (2017/11/2) 424	2200	4478103313
.文明の衝突。	サミュエル・ハンチントン(著)、鈴木 主税(翻訳)	集英社 (1998/6/26) 560ページ	3080	4087732924

その他

- 毎回、前回課題へのフィードバックと振り返りを解説する。優れた提出内容を表彰してほしい内容をマークや色付けで強調して表彰や注意喚起をする。モチベーションアップにつながるだろう。
- 授業プリント、「先読明確版」と「映像ビデオ版」等配布資料は必ず各自キャンパスクロスからアクセス・ダウンロード・印刷等を済ませて教室まで持ってきてください。
 尚書注意：本授業はリュウカポータルには、最初の授業連絡通知と最後の期末試験通知の2回だけを表示するが、その以外の授業資料や授業連絡・レスポンス課題提出等の連絡は一切掲示しない。
 代わりすべての資料・連絡・レスポンス課題等はキャンパスクロスに連絡・公開する。
 不明の場合、大学のメールでの相談を利用してください。
- 授業はPPT・プリント資料、映像、討論で進む。プリントには穴埋めが相当設けられ、授業中のPPTを確認しながら記入してください。

授業計画

次世代「Society 5.0」に構造転換を急ぐ日本、「インダストリー4.0」を提唱したドイツ、「未来に向けた産業政策・戦略」の英国や米国、「中国製造2025」の中国など、様々な国々のグローバル競争の過去・現在・未来を詳しく紹介する。日々むしろめざましい熾烈なビジネス競争を繰り広げるアップル、トヨタ、ファウウェイ等も登場し、国・産業・企業の3レベルから大局観を持ち、国際経営に備える知識・能力・思考法を身につけていきましょう。

- 授業内容計画概要。注：()内はビデオ内容。
 1 インロダクション：進め方、出席・単位等(56分中攻防の最前線)
 2 グローバル競争概観(グローバル競争の場)北歐スウェーデン(イケア)
 3 歴史の示唆：トウキエデスの農(米中貿易戦争の真実、その時日本は?)
 4 国の競争優位(一帯一路&インド太平洋 日系企業のインドへの進出)
 5 産業の競争優位(アフリカのランゲニア 日系中産層と清潔水)
 6 企業の競争優位(シンガポール：国が丸ごと企業体)
 7 イノベーション競争(人工知能AIの授業：米日での運用拡大)
 8 ベトナムとアセアン(ベトナムへの日系企業進出 コクヨ文具)
 9 韓国、台湾(日韓関係も政治経路?)
 10 ポルトガルとスペイン(ユニクロのスペインへの進出)
 11 フランスとイギリス(アサヒビールとのイギリス・フランスへの進出)
 12 フランスとドイツ(欧州の現日国、フランス)
 13 日本とロシア(ロシアへの進出と現地の商習慣)
 14 アメリカと中国(世界のAIとロボット：海底の進化)
 15 まとめ(アメリカ&中国：未来の覇権争い)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="checkbox"/>	PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/>	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="checkbox"/>	オ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/>	エ：グループワーク
<input type="checkbox"/>	カ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/>	キ：その他(A型でもあるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及ぎそれに必要な時間

- 文科省の大学設置基準第21条より、2単位の授業は90時間(以上)の学習を必要としている。
 15回で割ると毎回6時間の学習時間は必要である。
- 毎回、90分の授業時間を2時間とみなされている。
 毎回、授業外の予習と復習の時間は4時間が必要である。
- 毎回、教室の講義とともに、キャンパスのプリント資料・ビデオ資料をも生かして、予習・学習・復習をしてください。
- 予習の一例として、初回目では、「米中5Gについて考えて、授業中(分発言できる)のような質問に答えられるように、予習準備をしてください。
 復習の一例として、「今回、前回の講義の内容やキーワードについてしっかり理解して、場合によっては自己調べ・勉強しましょう。どうしても分からない場合、メールなどで担当先生へ連絡をしてください。」
- 先生とメール等とのやり取りする際、正しいマナーを十分意識し、「李先生」の宛先呼称・敬語表現・最後まで返信など、礼儀正しく言動を取ってください。
- 毎回、「知識は力になる」こと、を実感できる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- 企業や組織の国際運営・グローバル競争の仕組みを自ら主体的な立場から的確に理解できる。共通DP及び業界動向・問題探索・課題提案能力のDPに貢献できる。
- 身につけた知識・能力・資格を生かして、組織メンバーと外部関係者とも協力的に働きかける。自ら考えと理解のDPに貢献できる。
- グローバル競争の戦略立案と実行しながら、現地のニーズにも適応しつつ、柔軟で俊敏に大局的な視野と能力を持つことができる。グローバル分析や改善・解決のDPに貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- 講義を聞くだけではなく、考えてグループワークで喋ったり、発言をする。
 映像を見るだけではなく、メモしたり考えたり、レスポンスに回答を出し、発言をする。
- 質問やクイズなど、積極的に考えて、発言をしてみてください。
 - 他人の発言を聞いて、自分も発言できるように授業に臨んでください。
 - 先進的なレスポンスなどのシステムを駆使し、リアルタイムで他人の課題結果をグラフなどで確認でき、授業の効率と学習意欲の向上に繋がる。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な構えがあれば是非一度体験してみませんか。
 通り甲斐のある授業(そうか！これこそは大学らしい授業だ！)。
 静かで受講できる環境(私語はほとんどない!)。
 遠慮でほしい(遠慮の時間さえもない!)。
 みんな一緒に互いに勉強する(自力・他力、皆の力を感じるう!)。